



### 城北中学校・高等学校

所在地：〒174-8711 東京都板橋区東新町2-28-1  
東武東上線「上板橋」駅より徒歩10分 東京メトロ有楽町線・副都心線、西武有楽町線「小竹向原」駅より徒歩20分  
TEL：03-3956-3157 www.johoku.ac.jp

Profile

## クラブ活動で得た壁を乗り越える力と 面倒見の良い指導が進路実現を後押し

1941年創立の城北中学校・高等学校は、「人間形成と大学進学」を教育目標に掲げ、社会に有為な人材を数多く輩出しています。23区内としては最大級の広さの人工芝グラウンドを有し、文武両道を追求できる環境も魅力の一つ。今回は、中学野球部の先輩・後輩で、現在はそれぞれ医師、総合商社社員として活躍する2人の卒業生に、学校生活の思い出やそこから得た学びについて語ってもらいました。



山口 哲弘さん (2014年卒業)  
東京大学医学部附属病院小児科医師  
筑波大学医学群卒業

医療現場で大切なのはチームワーク。中高6年間、男子校という特殊な環境のなかで培ってきたコミュニケーション能力が、今の仕事にも役立っています。



西野 巧人さん (2016年卒業)  
三菱商事株式会社  
東京大学教育学部卒業

高校の休み時間には、アフリカ各国の首都をテーマにした山手線ゲームで盛り上がるなど、日常の何気ないやりとりから知的好奇心を高め合える環境でした。

### 中学野球部で味わった成功体験が その後の人生における支えに

—城北中を進学先を選んだ理由を教えてください。

山口 小学校高学年のときに足を運んだ文化祭で、活気ある雰囲気を感じたからです。見学した学校のなかで、いちばんグラウンドが広がったのも決め手でした。

西野 自宅が学校の近所だったことや、実績あるクラブ活動が多かったことから選びました。この学校なら、学習だけでなく、クラブ活動にも精いっぱい取り組めて、文武両道の学校生活が送れそうだと思います。

—お二人は、中学野球部の先輩・後輩だそうですね。

山口 わたしが中3のとき、西野くんが新入生として入部してきました。当時の練習はきつかった記憶がありますが、そ

の分、根性は培われました。困難なことがあっても、歯を食いしばって壁を乗り越える力は、そのときに身についたと思います。

西野 山口さんの言うとおり、練習は厳しかったです。思春期特有の「負けてなるものか」という反骨心が原動力でした。そのエネルギーを全力で練習に注いだ結果、都大会で準優勝を果たすことができました。その経験は、今でも強烈な成功体験として自分の支えになっています。

—思い出に残っている学校行事はありますか。

山口 文化祭です。中学生はクラス展示が主ですが、高校生になると有志の生徒で企画・参加することができます。その内容を仲間と一から決めていく作業はもちろん、他校との交流などもあって、とても楽しかったですね。

西野 最も印象的だったのは、高3の夏休みに行われる勉

強合宿です。これは、長野県にある学校所有の大町山荘で行われる名物行事で、9泊10日(当時)の合宿中、食事と睡眠以外のすべての時間を勉強に充てます。それまで部活一色の生活を送っていたので、「ここから大学受験に向けて全力でがんばろう」と気持ちを切り替えることができました。この大町山荘は、中1・中2の宿泊行事でも利用する、城北生にはなじみ深い場所です。高3の合宿中は勉強に追われ、周囲を散策したり、自然を楽しんだりする余裕がなかったので(笑)、卒業後に個人旅行で再訪しました。懐かしさもあいまって、あらためて良い場所だと感じました。

—印象的な授業があれば教えてください。

山口 中学のときの総合学習(現在は情報)です。教科の枠にとらわれず、多彩なテーマで学びと経験を重ねられるユニークな選択式講座でした。いちばん好きだったのは、小説やコントを作るというもの。なかには、「トイレを磨いて心を磨こう」というテーマで、トイレ掃除に取り組む講座もあり、「なんて自由なんだ」とこちらの想像を超えたテーマに驚いた記憶があります。

西野 高3のときの数学の授業です。生徒が先生役になって問題を解説するのですが、自分ではわかっているつもりでも、いざ他人に説明しようとする、実は理解できていない箇所や、論理が破綻している部分があることに気づかされます。そのとき学んだのは、自分にしか理解できない論理は、相手に受け入れてもらえないということ。わたしは常々、「自然な論理の流れに沿っているかどうか」を仕事の判断基準にしています。そうした「自然な論理」を意識するようになったのは、この授業のおかげです。

### 万全の受験対策で志望校に合格 親身になって支えてくれた先生方に感謝

—進路を決めたのはいつごろですか。また、それに対する学校のサポートについても教えてください。

山口 わたしは中学のときに父を亡くしましたが、その父が小児科医だったことがきっかけです。生前に担当していた患者さんが葬儀に参列してくださり、その方から父にまつわるさまざまなエピソードや感謝の気持ちを聞いたとき、「自分も父のような小児科医になろう」と決めました。高3になると、小論文指導や特別講習など、医学部に特化した受験対策が始まります。医学部志望の友だち同士で問題を出し合ったり、励まし合ったりしながら、モチベーションを高めました。

西野 高1で選抜クラスに入ったころは、二番手、三番手の国立大学を志望していました。しかし、野球で成功体験を重ねるにつれて、「せっかくなら、いちばん難しいところをめざ



ユニークなテーマの多彩な授業、仲間たちと高め合った時間、この教室での毎日が、山口さんの今につながっています



「空腹時はご飯を何杯もおかわりしました」と言う西野さん。中高時代の日常やクラブ活動の合宿の思い出を語ってくれました

すべきだ」と思いを改め、途中から第一志望校を東京大学に変更しました。自宅が学校の近所だったので、自習のために朝5時半に学校に行くと、すでに出勤されている先生がいて、その時間から演習につき合ってくれることもありました。また、授業で直接かわりない先生も英文文の添削指導を快く引き受けてくださり、多忙なか、ノートのやり取りを何度も続けてくださいました。本当に面倒見の良い先生の多い学校だったと思います。

—大学での専攻や、現在のお仕事について聞かせてください。

山口 筑波大学医学群を卒業後、現在は東京大学医学部附属病院の小児科に入局し、小児科医として勤務しています。医療現場では、治療方針をめぐるほかの医師と意見がぶつかることも珍しくありません。そんなときは、尊敬する先輩医師の「何が患者さんにとっていちばん大事かを考えなさい」ということばを自分に言い聞かせ、患者さんファーストの精神に立ち返ることを大切にしています。

西野 東京大学では教育学を学び、今は三菱商事の管理部門を担当しています。自分の提言が必ずしも通るわけではありませんが、それが新たな論点になったり、議論を深めるきっかけになったりすることにやりがいを感じています。中高時代に「自然な論理」を意識して勉強していたことが、今の仕事に生かされていると思います。

—最後に受験生に向けてメッセージをお願いします。

山口 生徒を誰一人見捨てない、温かい学校です。親身になってくれる先生がたくさんいるので、安心して入学してください。

西野 何事に対しても、素直に行動する生徒が伸びる学校だと思います。その精神があれば、社会でも活躍できるはず。努力が実るよう応援しています。



2022年に全面人工芝化されたグラウンド。中学野球部監督(当時)の坂内浩之先生とグラウンドで汗を流した日々を思い出します



Information  
学校説明会などの情報は  
こちらよりご確認ください。